

JOHA2016-17 年度共通課題「歴史研究についてのオーラル・ヒストリー I」

シンポジウム「歴史と記憶とオーラル・ヒストリー」

[趣旨]

歴史研究、特に近・現代史においては、オーラル・ヒストリーや聞き取り、インタビューの方法は、通常よく使用されてきている。生存者の戦争の記憶が薄れてくる戦後 70 年を超えた今日において、歴史社会学や社会史、経済史、移民史、学校史など多くの歴史研究にとって当事者の語り、家族や子供たちの記憶、また、モノの収集や遺跡、遺物の保存・収集などは、オーラル・ヒストリーとどのように関係していくのであろうか？また、研究者の「位置取り」や資料作成過程におけるインタビューアーの介在などをどのように考えたらよいのであろうか？今回の報告者・コメンテーターらは、満州移民や経済史、中国残留孤児たちの生き方、農民運動史や生活史、学徒動員や大学と戦争の歴史、自分史とライフストーリーなどを研究してきたが、戦後日本社会における歴史と記憶とオーラル・ヒストリーについて総合的に考察していきたい。多くの皆様のご来場を期待します。

★日時：2016 年 3 月 19 日（土） 13：30～17：30

★場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 北館ホール

司会：有末 賢（慶應義塾大学法学部教授）

報告者

- (1) 蘭 信三（上智大学教授）
「ライフストーリーによる社会学的歴史研究の可能性」
- (2) 大門 正克（横浜国立大学教授）
「オーラル・ヒストリーによる歴史学的歴史研究の可能性」
- (3) 都倉 武之（慶應義塾福澤研究センター准教授）
「『戦争と慶應義塾』をめぐるオーラル・ヒストリー
——記憶とモノを如何に繋ぐか——」

コメンテーター

- (1) 柳沢 遊（慶應義塾大学経済学部教授）
- (2) 小林 多寿子（一橋大学教授）

★懇親会：17：30～19：30

南校舎 4階 カフェテリア B（予定）

[主催] 慶應義塾福澤研究センター・日本オーラル・ヒストリー学会・三田社会学会

<プログラム案>

1. 開会(13時30分)
2. シンポ報告(13時35分～15時15分)
休憩(15分)
3. コメント(15時30分～16時00分)+リプライ(16時～16時30分)
4. 総合討論(16時30分～17時20分)
5. 閉会の挨拶(司会からまとめと挨拶 10分)